

看護学科卒業生 小笠原華子 さんへのインタビュー 「新人看護師教育の反省から実習指導者へ」

Q1. 実習指導者を志した理由について教えてください。

看護師2年目の年度末に、師長と次年度の役割などについて面談がありました。その際に私が教育に向いているのではないかと病棟の教育担当を勧めてくださったのがきっかけです。最初は病棟の教育係の一員として、先輩方と新人教育を行っていました。新人看護師の素直な反応や手ごたえもあり、教育が楽しいと思うようになりました。一方で、当時新人看護師だった2、3年目の同僚に当時の自分の印象を聞いてみると、「怖かった」と言われ自分の教育の在り方を反省しました。当時、教育に余裕がなかった自分でしたが今後どんな努力が必要なのか、どう相手に伝えたら自分の伝えたいことが伝わるのかなど、もっと人に教えるということを手伝っていきたくて、4年目に実習指導者を目指そうと思いました。

Q2. 実習指導で印象に残っているエピソードについて教えてください。

ある学校の実習中に、教員から学生の指導に困っていると相談を受けました。教員の意図が学生に十分に伝わらないため、実習指導者の私からも個別に関わってほしいという依頼でした。私は第三者として、教員が学生に求めていることが良くわかりました。同時に学生は子どもととても上手に関わってはいけるものの、うまく教員に伝えられていない様子が見て取れました。そこで、まず学生が落ち着いて話ができるように2人だけで、実習の計画を振り返りました。一つ一つ、ゆっくりと話しかけていくと学生は、「先生とうまくいかない、言っていることは分かるけどついていけない」という気持ちを表してくれました。気持ちを受け止めながら、学生が理解しやすいようにかみ砕きながら看護計画について説明し、教員につないで無事に実習を終えることができました。それから時が経ち、卒業式に招かれました。私のところにその時の学生が来てくれ、涙を流しながら「小児科の実習はとても楽しかったです。担当した患児のその後が気になります。」と言ってくれました。私は、学生にとってとても辛かっただろう実習にも関わらず、実習が楽しかった、看護が楽しかったと言ってくれたことに大変嬉しく思いました。この経験から、実習指導者は、教員が見ている学生とは別の、自分が捉えている学生を大事にして関わっていくことも大切なのだ気づかせてくれました。実習指導者の役割として、患者さんと学生だけでなく、学生と教員の橋渡しも担っており、学生にとって良い実習環境を教員と共に作っていくことが重要だと学びました。

Q3. 実習指導者になるために必要なことを教えてください。

実習指導に対して興味を持っていて、後輩の教育に興味があることを看護師長にアピールすることが大切です。そして、ただ興味があるだけではなく、部署特有の疾患や看護についてしっかり勉強していることは言うまでもありません。個人的には、相手のことをよく考えられる人や相手の立場に立って物事を考えられる人、相手の意見を聞くことができる人は向いていると思います。

Q4. 今後の目標や展望について教えてください。

今後は教育委員会のメンバーとして実習生だけでなく新人看護師や2～5年目の看護師の教育活動に携わりたいと思っています。昨年、実習指導者講習会に参加した後、私自身、目指す実習指導者の理想像がありましたが、実際はそう簡単にはいかないと実感しています。実は、最近、今年度最後の実習生を受け入れたのですが、あまり上手くできなかったと反省することがありました。引き続き、教育について学んでいきたいと思っています。

Q5. 看護師を目指す学生へアドバイスをお願いします。

そうですね。ちょっと厳しいことを言ってしまうのですが、看護師の仕事は甘くはないということは肝に銘じた方が良いでしょう。臨床において、生死に関わる辛く厳しい状況は避けられません。最近は、医療ドラマが多くてキラキラした世界があると思うかもしれませんが、現実とはではありません。大変な仕事ですし、私自身も辞めたいと思ったことはあります。振り返れば、3年間は無我夢中で毎日必至でした。4年目になってようやく、看護師の仕事を通して人間として大きく成長していると感じます。今は、看護師の仕事を中心に誇りに思っています。人生のことや死ぬこと生きることについて真剣に考えさせられ、そのような状況にある患者や家族と同じ時間を共有し関わることができる職業はなかなかないと思います。そして、就職してから思うのが、同期の仲間は本当に大事です。みんなで支えあって、乗り越えていくことが大切だと思います。加えて、職場では患者さんに対するコミュニケーション能力が重要であることは言うまでもありませんが、様々な経験や年齢の先輩・後輩と良い関係性を築くことも看護師に求められる能力の一つだと思います。



<左：附属病院 6-1 小児科病棟ナースステーションで看護記録を入力>



<右：小児科病棟 処置室にて>